

# 山岳遭難発生状況

(令和7年1月1日～令和7年5月6日)  
地域部 山岳安全対策課

## 1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和6年数値は1月1日からの同期間数値）

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令和7年	80	16	2	39	37	94
令和6年	82	14	0	33	47	94
前年同期比	-2	2	2	6	-10	0

## 2 山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
北ア	槍穂高	9	11.3%	3	0	2	5
	後立山	18	22.5%	4	0	9	12
	その他	11	13.8%	0	0	10	3
計	38	47.5%	7	0	21	20	48
中央アルプス	9	11.3%	3	1	3	3	10
南アルプス	1	1.3%	0	0	1	0	1
八ヶ岳連峰	12	15.0%	3	0	7	3	13
その他の山岳	20	25.0%	3	1	7	11	22
計	80		16	2	39	37	94

## 3 態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	30	37.5%	11	0	21	0	32
転倒	15	18.8%	1	0	14	0	15
病気	4	5.0%	1	0	0	3	4
道迷い	14	17.5%	0	0	0	21	21
落石	1	1.3%	0	0	1	0	1
雪崩	1	1.3%	0	0	0	1	1
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	1	1.3%	0	0	0	2	2
不明・他	14	17.5%	3	2	3	10	18
計	80		16	2	39	37	94

## 4 男女別・年齢別比率

区分	男性					(人)比率	女性					(人)比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	3	3		0	0	0	0	0	3		
20代	0	0	1	7	8	22	0	0	1	3	4	12	29	
30代	2	2	3	4	11	29.3%	0	0	1	2	3	14	30.9%	
40代	4	0	7	2	13	32	0	0	2	1	3	16	40	
50代	4	0	6	9	19	42.7%	0	0	5	0	5	24	42.6%	
60代	3	0	7	5	15	21	0	0	4	0	4	19	25	
70以上	3	0	2	1	6	28.0%	0	0	0	0	0	6	26.6%	
計	16	2	26	31	75		0	0	13	6	19	94		
比率	79.8%						20.2%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（4/28～5/6）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
4月28日	北アルプス 大天井岳	男	48	負傷	滑落	2人パーティで大天井岳付近を登山中、雪に足を滑らせ、滑落、負傷
4月28日	北アルプス 爺ヶ岳	男	55	死亡	滑落	2人パーティで爺ヶ岳に入山し、別々に下山中、何らかの原因により滑落
4月28日	北アルプス 爺ヶ岳	男	40	死亡	滑落	単独で爺ヶ岳から下山中、何らかの原因により滑落
4月30日	ハケ岳連峰 編笠山	男	81	負傷	滑落	2人パーティで編笠山を登山中、足を滑らせ滑落、負傷
4月30日	北アルプス 焼岳	男	69	無事救出	道迷い	単独で焼岳から中ノ湯に向けて下山中、道に迷い行動不能
5月1日	北アルプス 蝶ヶ岳	男	60	負傷	滑落	3人パーティで蝶ヶ岳から横尾に向けて下山中、滑落、負傷
5月1日	中央アルプス 空木岳	男	78	死亡	滑落	2人パーティで池山尾根を下山中、道に迷い、滑落
5月1日	中央アルプス 空木岳	男	39	無事救出	道迷い	上記遭難者の同行者
5月2日	ハケ岳連峰 縞枯山	女	41	負傷	その他	2人パーティでハケ岳ロープウェイから縞枯山に向けて登山中、雪を踏み抜き、負傷
5月3日	北アルプス 蝶ヶ岳	男	54	負傷	滑落	単独で蝶ヶ岳から横尾に向けて下山中、滑落、負傷
5月3日	北アルプス 前穂高岳	男	22	無事救出	疲労	2人パーティで前穂高岳から岳沢に向けて下山中、疲労により行動不能
		男	22	無事救出	疲労	
5月5日	北アルプス 涸沢	男	67	無事救出	発病	3人パーティで涸沢に幕営中、何らかの疾患を発症し、行動不能
5月5日	北アルプス 常念岳	男	29	負傷	その他	単独で山小屋に滞在中、膝の痛みを発症し、行動不能
5月5日	北アルプス 奥穂高岳	女	46	負傷	滑落	2人パーティでコブ尾根を登山中、滑落、負傷
5月5日	北アルプス 奥穂高岳	女	42	無事救出	その他	上記遭難者の同行者。技量不足により行動不能
5月5日	北アルプス 蝶ヶ岳	男	53	負傷	滑落	単独で三股登山口に向けて下山中、雪に足を滑らせ、滑落、負傷
5月5日	北アルプス 焼岳	女	23	負傷	滑落	3人パーティで焼岳から上高地に向けて下山中、滑落、負傷
5月5日	北アルプス 焼岳	女	27	無事救出	その他	上記遭難者の同行者。技量不足により行動不能
		女	23	無事救出	その他	
5月5日	戸隠山	男	49	負傷	滑落	単独で八方畹から奥社に向けて下山中、滑落、負傷
5月6日	ハケ岳連峰 赤岳	男	41	死亡	滑落	2人パーティで入山し、権現岳から赤岳に向けて別行動中、何らかの原因で滑落
5月6日	北アルプス 北穂高岳	男	51	負傷	滑落	単独で北穂高岳から涸沢に向けて下山中、滑落、負傷

## 山岳安全対策課からのアドバイス

先週は、連休を中心に21件の遭難が発生しました。21件中、滑落による遭難が13件発生しています。滑落による遭難のほとんどが下山時に発生しています。標高の高い北アルプスなどでは、残雪が多くあります。早朝は凍結により硬くしまり、日中は気温の上昇や日照の影響で融雪が進み雪が緩むなど、一日のなかで雪の状態が大きく変化する時期です。そのため、登山には残雪の変化に対応できる技術や体力、装備品が必要です。今年の特徴として、雪上でのスリップによる滑落のほか、融雪が進み雪を踏み抜いてバランスを崩して滑落するといった遭難が多く発生しています。疲労の蓄積や筋力の消耗が多い下山時は、ちょっとしたバランスの崩れに対応できずに転倒や滑落をしてしまい、死亡や負傷する遭難につながっています。標高の高い山域では、まだまだ残雪が多く、冬山登山の延長にあります。登山には多くのリスクが存在し、無事に帰宅するまでが登山です。遭難を他人事と考えず、装備、計画を万全にして安全第一で楽しみましょう。